

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2019年												2020年																				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~9日	9月 ~18日	9月 ~20日	9月 ~27日	10月 ~4日	10月 ~11日	10月 ~18日	10月 ~25日	11月 ~1日	11月 ~8日	11月 ~15日	11月 ~22日	
カンピロクター	56	46	78	65	87	128	102	107	157	62	49	91	42	46	55	54	92	177	241	189	36	24	16	21	18	28	25	38	23	35	28	25	
病原性大腸菌	85	81	77	69	51	59	51	37	85	46	41	39	22	34	39	30	24	63	60	76	19	15	10	8	10	8	4	11	9	17	8 (10)	4	
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	1	0	0	0	1	4	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
サルモネラ	5	3	11	6	3	11	5	12	18	9	13	13	4	1	2	4	10	7	14	29	4	3	2	7	0	4	1	2	3	2	3	3	
黄色ブドウ球菌 MSSA	10	9	12	13	14	24	11	17	15	8	10	26	6	20	11	3	9	15	15	20	7	2	1	3	2	2	3	5	5	5	3 (4)	2	
黄色ブドウ球菌 MRSA	22	16	22	14	11	12	18	12	15	10	10	10	10	11	17	8	14	14	11	17	1	1	6	1	0	3	1	4	2	1	2	2 (3)	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	1	0	0	3	1	2	4	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ロタウイルス	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アデノウイルス	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
ノロウイルス	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	6	19	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和2年第47週(11月16日~11月22日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3				1	1	1	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	5	つつが虫病	2	1				1		
		レジオネラ症	3	1			1	1		
五類	7	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1			1				
		侵襲性肺炎球菌感染症	1				1			
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1			
		梅毒	3			1		2		
		百日咳	1					1		
指定	56	新型コロナウイルス感染症	56	3	1	5		46		1

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

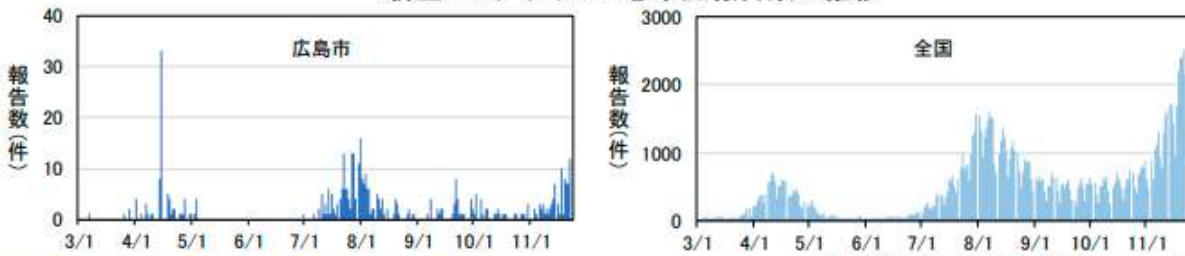
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

新型コロナウイルス感染症

第47週に46件の報告がありました。11月以降報告数が増加しており、20歳代、50歳代の報告が多くなっています。全国では、増加傾向が強まり、過去最多の水準となっています。感染拡大のスピードが増していることから、更に急速な拡大に至る可能性があります。

感染経路は、家庭、歓楽街、会食、職場、学校、医療機関、高齢者施設など多様化しており、一人一人が、「3密」の回避、マスク着用、手洗い、換気など、感染予防、拡大防止対策を徹底することが大切です。また、会食時に飛沫感染が起こりやすいことが指摘されています。会食時でも、会話をしている際はマスクを着用するよう心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症報告数の推移



【出典】全国データ：厚生労働省オープンデータ

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィリ	インフルエンザ	2	0.05	1.44			小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.40		
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.35				RSウイルス感染症	-	-	0.62		
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	0.63	2.87			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.08		
	感染性胃腸炎	34	1.42	9.89				流行性角結膜炎	1	0.13	0.65		
	水痘	4	0.17	0.45			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	16	0.67	0.49				無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	-	-	0.33				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.26		
	突発性発しん	8	0.33	0.33				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.10				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	116	男性(90歳代)
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	22	男性(10歳代)・O121
4	つつが虫病	1	2	男性(70歳代)
4	レジオネラ症	1	16	男性(70歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	8	女性(50歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	17	男性(60歳代)
5	梅毒	2	53	男性(30歳代)、男性(40歳代)
5	百日咳	1	40	女性(30歳代)